

「須坂フルーツ発泡酒」を核とした果樹振興と販わい創出事業

主担当課：産業振興部 産業連携開発課

NO	具体的な施策・事業	重要業績評価指標（KPI）	担当課	事業開始前	単位	基準年度	2017年度増加分	2018年度増加分	2019年度増加分	3カ年増加分	単位	目標値（2019年度）KPI増加分の累計	単位
1	遊休荒廃農地の解消推進	遊休荒廃農地解消面積	農林課	4.3	ha	2017	5.2	2.0	2.0	9.2	ha	14（累計）	ha
2	新規就農世帯数の増加	新規就農世帯数	農林課	10	世帯	2017	10	17	8	35	世帯	36（累計）	世帯
3	フルーツ発泡酒に使用する果物の収穫体験、醸造体験ツアーを通じた認知度の向上推進	収穫体験、醸造体験ツアーの参加者数	産業連携開発課	0	人	2017	0	42	42	84	人	100（累計）	人
4	須坂産果物を使った発泡酒の販路拡大の推進	須坂産果物を使った発泡酒の販売額	産業連携開発課	0	千円	2017	3,600	18,475	23,040	45,115	千円	37,576（累計）	千円

各年度ごとの成果・課題等（KPIが達成できた理由、達成できなかった理由等）

【2017年度】

- ・「3 フルーツ発泡酒に使用する果物の収穫体験、醸造体験ツアーを通じた認知度の向上推進」の「収穫体験、醸造体験ツアーの参加者数」について、2017年度交付金交付決定時には、果物の収穫時期が終了しており、ツアーの実施ができなかった。
- ・「4 須坂産果物を使った発泡酒の販路拡大の推進」の「須坂産果物を使った発泡酒の販売額」について、2017年10月からの販売開始となり、2017年度増加分が少なかったが、瓶詰め商品での取扱い店舗が増加していることから2018年度以降、販売額の大幅な増加が見込まれる。

【2018年度】

- ・「1 遊休荒廃農地の解消推進」について、2018年度は遊休荒廃農地を使つての大規模な耕作者がいなかったため、年度目標（4.7ha）を達成できなかった。
- ・「2 新規就農世帯数の増加」について、JAの果樹棚リース事業の効果もあり、年度目標（12世帯）を上回り達成できた。
- ・「3 フルーツ発泡酒に使用する果物の収穫体験、醸造体験ツアーを通じた認知度の向上推進」の「収穫体験、醸造体験ツアーの参加者数」について、市内生産者と連携し、首都圏等の飲食店、パイヤー及び一般の方を対象とした醸造所の見学、収穫体験等を実施し、年度目標（40人）を上回ることができた。
- ・「4 須坂産果物を使った発泡酒の販路拡大の推進」の「須坂産果物を使った発泡酒の販売額」について、2018年度は瓶詰め商品の販売を始め、取扱い店舗が飲食店等58店舗、酒販店68店舗と大幅に増加となったため、年度目標（12,121千円）を上回ることができた。

【2019年度】

- ・「1 遊休荒廃農地の解消促進」について、2019年度は遊休荒廃農地を使つての大規模な耕作者がおらず、また台風19号被害による影響もあり、年度目標（4.8ha）を達成できなかった。
- ・「2 新規就農世帯数の増加」について、前年度が比較的多く増加したため、今年度は見込みを下回る結果となった。
- ・「3 収穫体験、醸造体験ツアーの参加者数」について、フルーツエールに関心を持つ消費者、パイヤーは定着してきているが、年度目標値（50人）までには届かなかった。
- ・「4 須坂産果物を使った発泡酒の販売額」について、2019年度は、新たに2種類の新製品が発売されたこと、また各商品が常温流通可能となったため、取扱い店舗が飲食店等64店舗、酒販店84店舗と大幅に増加した。また新たに「信州須坂ビアフェスティバル」の実施に伴い、1,000人を超える方が参加し、フルーツエールの売り上げ、知名度の向上につながった。これらの状況により、年度目標（18,182千円）を上回る結果となった。